

事業の背景・目的

平成28年に市内で特定外来生物クビアカツヤカミキリ(以下、当該虫という。)が発見されてから6年が経過した。被害域はほぼ市内全域にまで拡大(被害木本数2751本R5.3現在)した。そのため、今年度は薬剤施工モデルの構築(新たに散布剤導入)及び市民防除ボランティア「クビアカみっけ隊(以下、みっけ隊という。)」の活動支援に力点を置き、市民の防除モデルの構築を目的とした。

事業の内容

ア啓発事業

市内小学校22校の3.4年生、特別支援学校2校を対象に「クビアカみっけ隊」募集チラシを配付した。

**市内小学校22校、特別支援学校2校へ配付
2,700枚**

イ防除事業

- ・ 民地、市有地における被害木認定及び防除指導
民地235件、市有地14件 (R5.3.13現在)
 - ・ 計画的に被害域外周地点への薬剤施工 (散布剤の導入)
29地点242本
 - ・ 基本的防除法に幼虫掘り取り導入 **掘り取り数1,054匹**
 - ・ 樹勢回復と防除を兼ねた「**不定根誘導施工法**」を開発
検証 **3本施工**
- ウ被害木認定及び防除指導の外部委託事業 民地のみ53件**
エ被害木伐採業務委託事業 市有地27本

オ市民ボランティア防除能力強化事業

「みっけ隊」と協働で事業実施する等みっけ隊員の防除力強化に力を入れた。結果、成虫2,171匹を駆除。中でもエルマー学童くらはぶは657匹もの成虫を駆除。功績が認められ「みどりの功労者 栃木県知事賞」を受賞。隊員の士気が高まった。

また、当該虫に関する知見の深化及び隊員間の情報共有を図るため、「クビアカみっけ隊通信」を創刊。併せて、みっけ隊専用LINEを作製し、隊員への情報共有の円滑化を図った。

得られた成果

計画的防除に力を入れ被害域外周地点29地点242本に薬剤施工を実施。新たに散布法を導入したことにより被害軽減率9割、治癒率5割を達成することができた。これにより1つの薬剤防除モデルを構築できた。

また、本市独自の市民防除ボランティア「クビアカみっけ隊」の支援に力を入れ、隊員数の増及び成虫捕獲数2,171匹という成果を残した。中でもみっけ隊に所属するエルマー学童くらはぶは657匹を駆除し、その功績により栃木県より「みどりの功労者 栃木県知事賞」を受賞した。結果、1つの市民による防除モデルを構築できた。加えて情報の共有(みっけ隊通信)、円滑化(専用LINEの構築)を図りより隊員との知見の共有及び連携を強化できた。

次年度は、新設される特定外来生物防除等事業交付金を活用予定。計画的防除の内容をより発展させ効果的な防除を推進する。また、市民等と協働した成虫駆除による「採集圧」で当該虫密度を薄め、長期的視点を持ち市内の被害軽減(被害木の減少)を図る。